

水球日本代表活動からみた 学校水泳

鳴門教育大学 保健体育分野 南陸尚

新学習指導要領の改訂ポイント オリンピック・パラリンピック教育

『オリンピック・パラリンピック教育を通じて、子どもから大人まで、国民一人一人がスポーツの価値ならびにオリンピック・パラリンピックの意義に触れることは、2020年東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会に向けた全国的な機運の醸成のみならず、それ以降の東京大会の有形・無形のレガシー（後世に引き継ぐ物理的・精神的遺産）業績、創出に向けてきわめて重要な取組となる。』

文部科学省 平成27年2月
「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて 最終報告」

オリンピック・パラリンピックの理念と オリンピック・パラリンピック教育の意義

オリンピック・パラリンピックを題材にして、

1. スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
2. 障害者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画（「する」「見る」「支える」「調べる」「創る」）の定着・拡大
3. 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成

文部科学省 平成27年2月
「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて 最終報告」

新学習指導要領の改訂ポイント オリンピック・パラリンピック教育

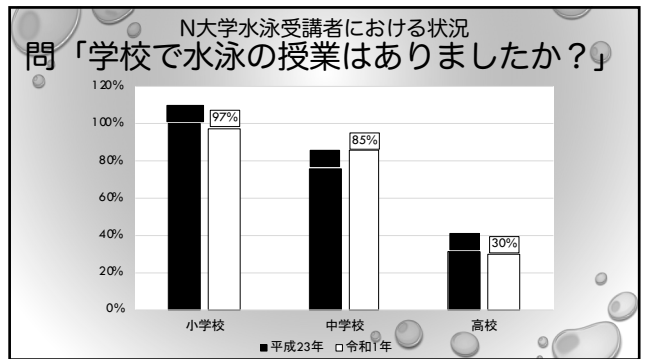
- ・オリンピック・パラリンピックの開催を手掛かりにした戦後の我が国の展開についての理解（小:社会）
- ・オリンピック・パラリンピックに関連したフェアなプレイを大切にするなどスポーツの意義の理解（小:体育, 中:保健体育）
- ・障害者理解・心のバリアフリーのための交流（小中:総則, 道徳, 特別活動）

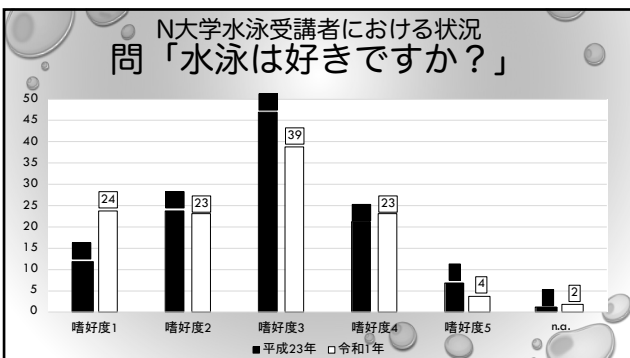
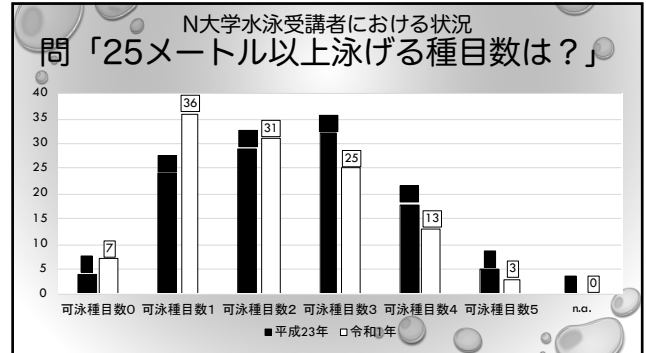
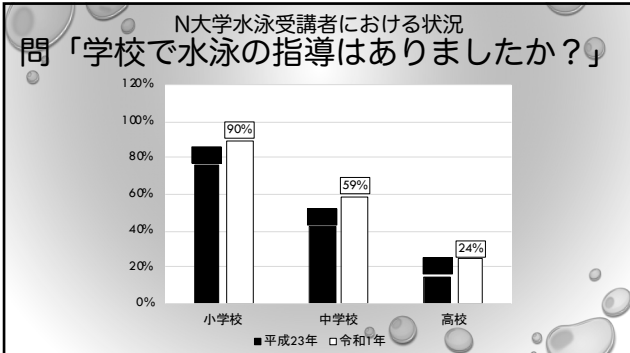
文部科学省 平成27年2月
「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて 最終報告」

水泳運動系の技術の系統性

学年	低学年	中学年	高学年	運動内容
目的	基礎的な動き	基本的な動きや技能	基本的な技能	
進むこと	水の中を移動する運動遊び	浮いて進む運動	クロール	姿勢を維持しながらの運動
浮くこと	もぐる・浮く運動遊び	もぐる・浮く運動	安全確保につながる運動	浮き沈みしながらの運動
呼吸すること			平泳ぎ	

岡出美則・植田誠治編「小学校新指導要領ポイント総整理」東洋館出版社(2017)から改編





ボール分野・表現分野

目的	低学年	中学年	高学年	運動内容
表現系	表現リズム遊び (表現遊び、リズム遊 び)	表現運動 (表現、リズムダン ス)	表現運動 (表現、フォークダン ス)	ダンス系
ゲーム系	ゲーム (ボールゲーム、鬼 ごっこ)	ゲーム (ゴール型ゲーム、 ネット型ゲーム、ペ ースボール型ゲーム)	ボール運動 (ゴール型、ネット 型、ベースボール型)	ボール系

岡出美則・植田誠治編「小学校新指導要領ポイント総整理」東洋館出版社(2017)から改編

水球競技の普及

- ビーチウォーターポロ (FINA)
- アクアゲーム (日本)
- フリップボール (オーストラリア, ニューゼーランド)

<http://www.swim.or.jp> <https://www.waterpoloaustralia.com.au/>

- ### 2018年12月 水球競技国際ルール改訂の内容
- 攻撃時間：以下の攻撃時間を20秒にリセットする(改定前は30秒)
(1)コーナースロー、(2)シュートのバウンド後の再攻撃、(3)退水発生時に
 - フリースローの位置：フリースローはボールがある位置から行われる(改定前は反則が発生した位置)。
 - コーナースロー後の制限解除
(1)直接シュート、(2)ドリブルでのシュート、(3)他のプレーヤーへのパスのいずれも可能(改定前は(3)のみ可能)。
 - 選手交代方法：いつでも自陣サイドライン外でハイタッチで交代(改定前は両選手がエンドラインの自陣再入水エリアのみ)。
 - タイムアウト：1試合に2回(改定前は各バリエードに1回、計4回)。
 - ハーフタイム：3分(改定前は5分)。
 - フリースローシュート：反則が発生した位置6M線外の場合、(1)フリースローからの直接シュート、(2)ボールを手から離れた後のフェイク、ドリブル後のシュートが可能。
 - ゴールキーパーはハーフラインを越えてプレーする事が可能(これまでは自陣だけでプレー可能だった)。
 - ビデオによるゴールイン判定
 - GAME VIDEO MONITORING SYSTEM
- 2019年3月日本水泳連盟水球委員会資料より抜粋